

2012 (平成24)年紙・板紙内需試算報告

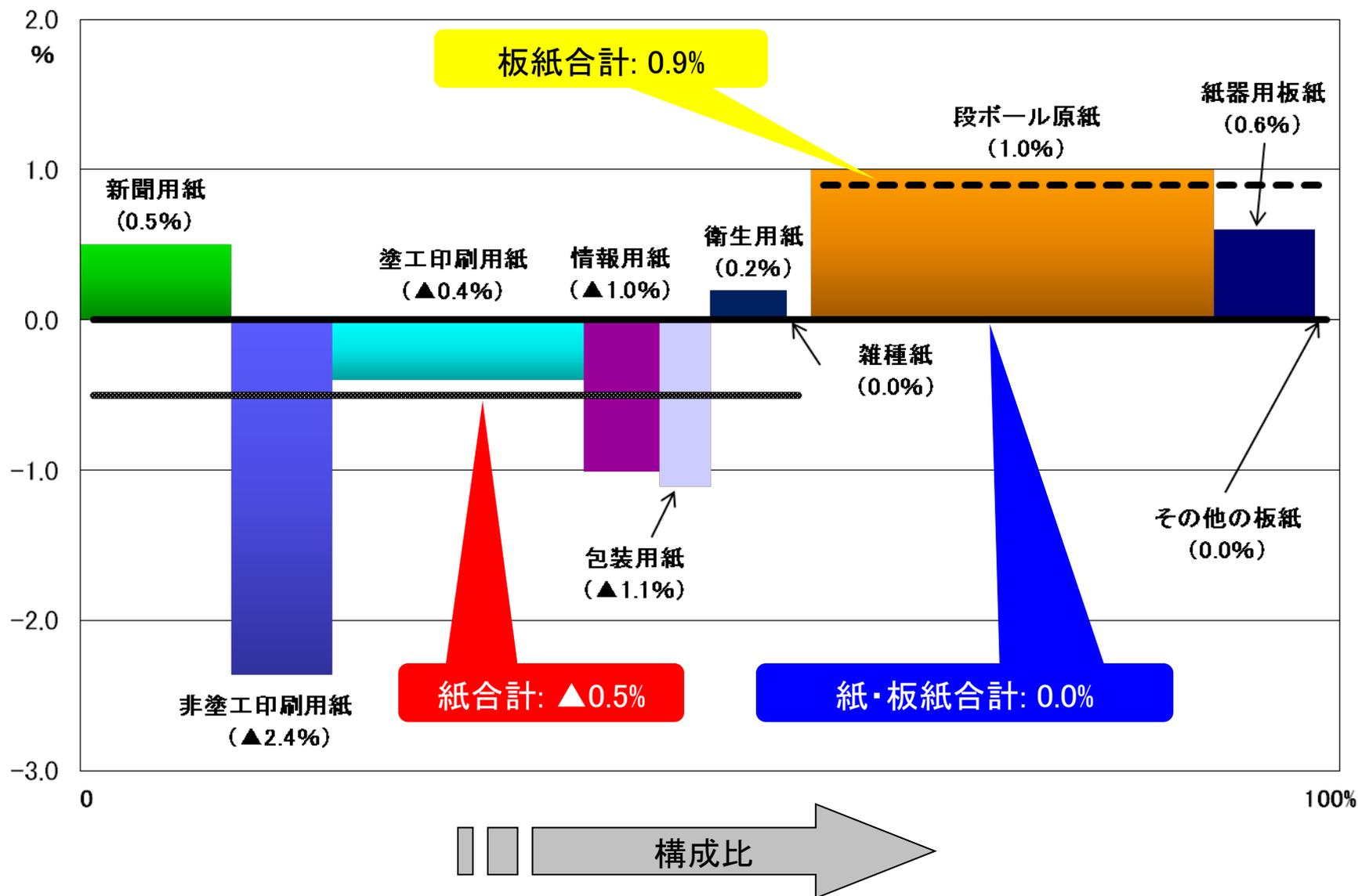
平成24年1月20日

日本製紙連合会

内 容

- I. 2012(平成24)年 紙・板紙内需試算(総括)…P3～5
- II. 2012(平成24)年 品種別内需試算…P6～23
- III. 2011年 紙・板紙内需実績見込み…P24
- IV. 参考…P25～26

I. 2012 (平成24)年紙・板紙内需試算 ①成長率と構成比



② 2012(平成24)年紙・板紙内需試算(実績推移及び見通し)

(単位:千トン、%:対前年増減率)

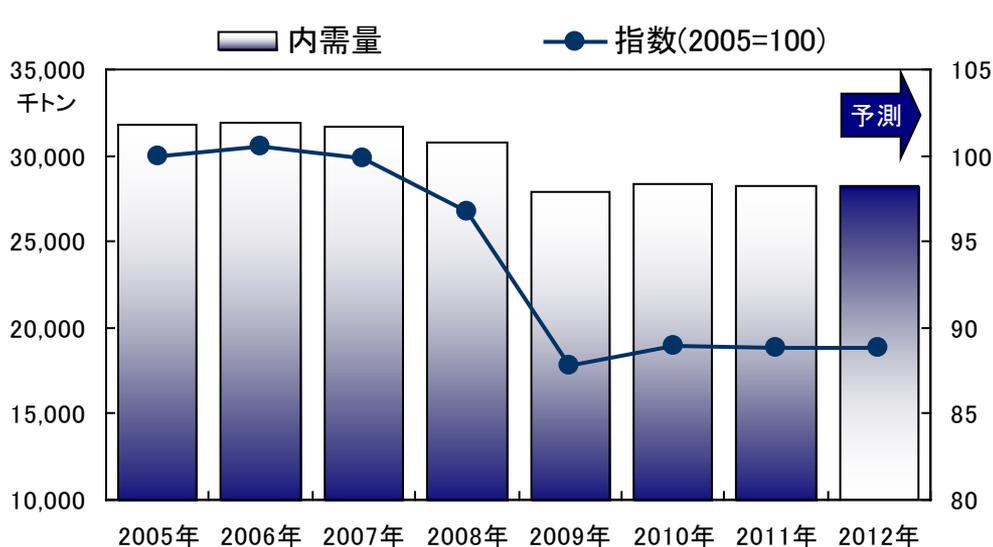
	品 種	2004年		2005年		2006年		2007年		2008年		2009年		2010年		2011年見込み		2012年見通し	
紙	新聞用紙	3,755	2.1	3,759	0.1	3,764	0.1	3,716	▲ 1.3	3,632	▲ 2.3	3,414	▲ 6.0	3,349	▲ 1.9	3,236	▲ 3.4	3,252	0.5
	非塗工印刷用紙	3,196	0.3	3,140	▲ 1.7	3,097	▲ 1.4	3,053	▲ 1.4	2,830	▲ 7.3	2,581	▲ 8.8	2,494	▲ 3.4	2,433	▲ 2.4	2,374	▲ 2.4
	塗工印刷用紙	6,807	4.1	6,876	1.0	6,954	1.1	6,817	▲ 2.0	6,512	▲ 4.5	5,686	▲ 12.7	5,571	▲ 2.0	5,627	1.0	5,605	▲ 0.4
	情報用紙	1,981	2.3	1,977	▲ 0.2	1,992	0.8	2,005	0.7	2,010	0.2	1,847	▲ 8.1	1,886	2.1	1,866	▲ 1.1	1,848	▲ 1.0
	印刷・情報用紙計	11,983	2.8	11,993	0.1	12,042	0.4	11,876	▲ 1.4	11,352	▲ 4.4	10,115	▲ 10.9	9,951	▲ 1.6	9,926	▲ 0.2	9,827	▲ 1.0
	未ざらし包装紙	603	0.6	598	▲ 0.8	604	1.0	612	1.3	588	▲ 3.9	491	▲ 16.5	552	12.6	531	▲ 3.9	525	▲ 1.0
	ざらし包装紙	352	1.0	354	0.6	362	2.2	368	1.9	354	▲ 3.8	290	▲ 18.0	300	3.3	292	▲ 2.7	288	▲ 1.2
	包装用紙計	955	0.8	952	▲ 0.3	966	1.5	981	1.6	942	▲ 3.9	781	▲ 17.1	852	9.1	823	▲ 3.5	814	▲ 1.1
	衛生用紙	1,750	2.1	1,810	3.4	1,833	1.3	1,820	▲ 0.7	1,832	0.6	1,836	0.2	1,856	1.1	1,869	0.7	1,873	0.2
	雑種紙	894	1.5	826	▲ 7.6	852	3.1	872	2.4	822	▲ 5.8	713	▲ 13.2	797	11.8	750	▲ 6.0	750	0.0
	紙 計	19,337	2.4	19,338	0.0	19,457	0.6	19,264	▲ 1.0	18,579	▲ 3.6	16,858	▲ 9.3	16,805	▲ 0.3	16,604	▲ 1.2	16,516	▲ 0.5
板	ライナー	5,616	1.3	5,616	▲ 0.0	5,621	0.1	5,621	0.0	5,485	▲ 2.4	5,024	▲ 8.4	5,232	4.1	5,282	1.1	5,335	1.0
	中しん原紙	3,694	1.3	3,726	0.9	3,761	0.9	3,776	0.4	3,697	▲ 2.1	3,372	▲ 8.8	3,496	3.7	3,515	0.6	3,550	1.0
	段ボール原紙計	9,310	1.3	9,342	0.3	9,381	0.4	9,397	0.2	9,182	▲ 2.3	8,397	▲ 8.6	8,728	3.9	8,797	0.9	8,885	1.0
	白板紙	2,037	0.4	2,029	▲ 0.4	2,031	0.1	2,006	▲ 1.3	2,038	1.6	1,886	▲ 7.4	1,939	2.8	1,981	2.2	1,995	0.7
	黄トップ・色板	209	▲ 0.3	206	▲ 1.4	205	▲ 0.5	192	▲ 6.4	182	▲ 5.0	151	▲ 17.1	155	2.8	154	▲ 0.9	154	0.0
	紙器用板紙計	2,246	0.3	2,236	▲ 0.5	2,237	0.0	2,198	▲ 1.7	2,220	1.0	2,037	▲ 8.2	2,094	2.8	2,135	2.0	2,149	0.6
	その他の板紙	880	▲ 0.1	858	▲ 2.5	867	1.0	867	▲ 0.0	776	▲ 10.5	612	▲ 21.1	667	9.0	672	0.6	672	0.0
	板 紙 計	12,435	1.0	12,435	▲ 0.0	12,485	0.4	12,461	▲ 0.2	12,177	▲ 2.3	11,046	▲ 9.3	11,489	4.0	11,604	1.1	11,707	0.9
	紙・板紙計	31,772	1.9	31,774	0.0	31,942	0.5	31,725	▲ 0.7	30,756	▲ 3.1	27,904	▲ 9.3	28,295	1.4	28,209	▲ 0.3	28,222	0.0

注) 千トン未満を四捨五入しているため、合計と積み上げた数量の計とは合わない場合がある。なお、対前年増減率はトンベースによる。

③ 2012 (平成24)年紙・板紙内需試算増減要因

プラス要因	マイナス要因
<p>①復興需要の本格化(実質GDPのプラス予想/企業業績の改善)</p> <p>②イベント開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ■東京スカイツリー開業(5月) —主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響 ■イギリス・ロンドン夏季五輪開催(7月～8月) —主に新聞用紙、印刷・情報用紙に影響 ■各国大統領選挙・首脳交代 台湾(1月)、ロシア(3月)、フランス(4月～5月)、中国(10月)、 米国(11月)、韓国(12月) <p>③エコカー補助金の復活等による自動車需要の回復 —主に印刷・情報用紙、段ボール原紙に影響</p> <p>④東日本大震災後の建て替え需要、住宅版エコポイント制度・フラット35Sの金利優遇措置による住宅需要の増加</p> <p>⑤旅行需要の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内(外国人旅行客の回復、前年の自粛ムードの反動) ・海外(円高) <p>—主に印刷・情報用紙に影響</p> <p>⑥青果物市場の回復(近年の記録的な低出荷の反動) —主に段ボール原紙に影響</p> <p>⑦内食化/家ナカブームの継続 —主に段ボール原紙・白板紙に影響</p> <p>⑧ジェネリック医薬品の普及 —主に段ボール原紙・白板紙に影響</p> <p>⑨うるう年 —主に新聞用紙、衛生用紙、白板紙に影響</p> <p>⑩コンビニや大手ドラッグストアの出店増</p>	<p>①構造的要因の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ■広告の紙離れ(ネット広告へのシフト) ■紙の出版物の減少(活字離れ、出版社の返品率改善努力等。 電子書籍の影響は軽微) ■需要家の用紙関連コスト削減の動き <ul style="list-style-type: none"> ・目論見書、契約書、帳票類等の電子化 ・チラシ・カタログ・パンフレット類、取扱説明書等の廃止/ 部数削減/サイズ縮小 ・省資源や経費削減に伴う全般的な節約の動き ・軽量品および低グレード品へのシフト ■企業の海外生産シフト/円高による輸出の低迷 ■人口減/少子高齢化 <p>②原発停止による企業活動への影響</p> <p>③制度改正(子ども手当の減少、住民税の年少扶養控除廃止等) による家計の負担増</p> <p>④花粉飛散量が少ないと予想される —主にティッシュペーパーに影響</p> <p>⑤地デジ特需の反動 —主に段ボール原紙に影響</p>

Ⅱ. 2012(平成24)年品種別内需試算：(1) 紙・板紙合計



「近年の動向」

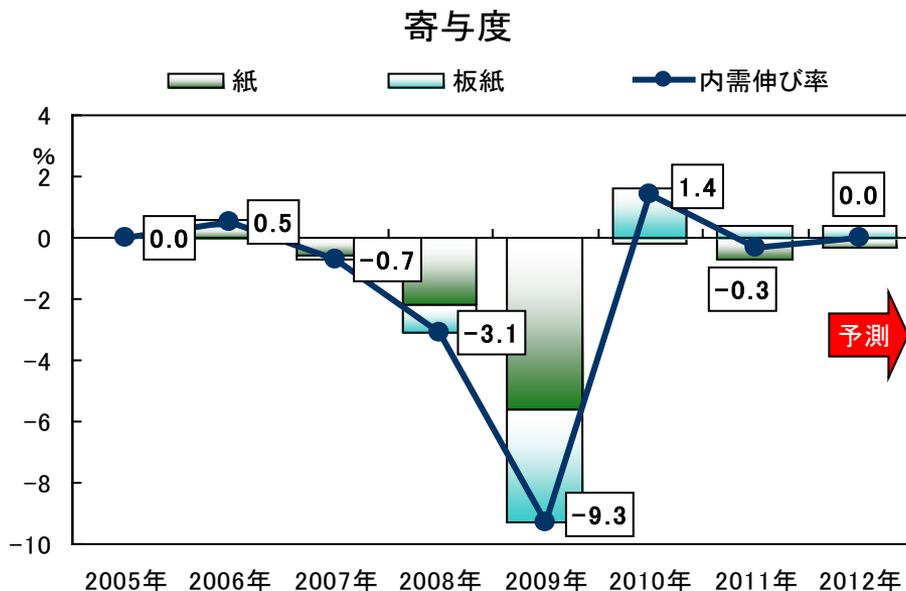
★紙・板紙の内需はリーマン・ショック後の2009年に大きく数量を落とし、2010年は4年ぶりにプラスに転じたものの、大きな反動もなく微増に留まった。2011年は、紙が大震災後の自粛ムードから個人消費の委縮や広告需要の落ち込みにより減少、板紙は内食化を背景とした堅調な食品需要に被災地への支援物資の搬送等もあり増加、全体では再び前年を下回った。サプライ別には、国内出荷は減少したが、輸入は増加した(25頁参照)。

「2012年予測」

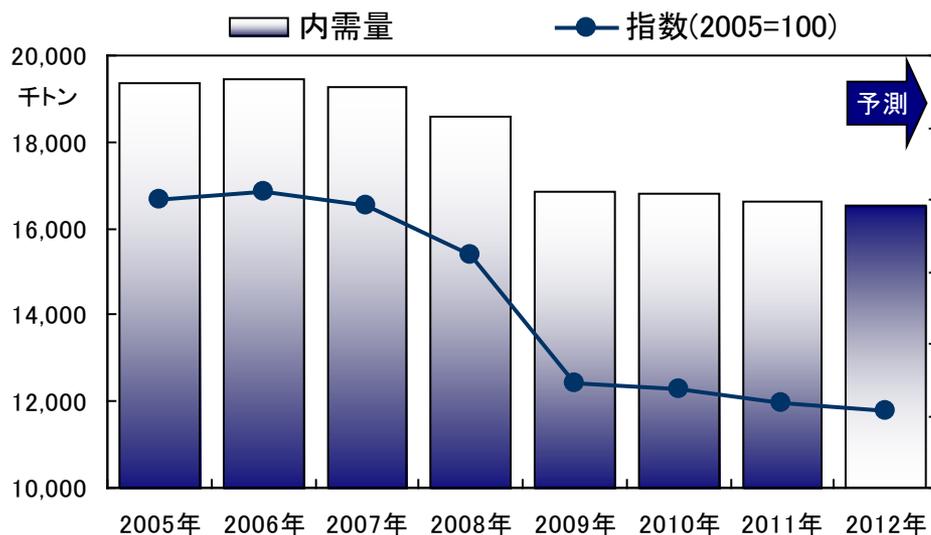
☆アンケート、ヒアリング等による2012年のベースシナリオについて、実質GDPは2年ぶりにプラス成長が見込まれるが、円高や世界的経済不況で輸出環境は厳しく、企業活動も節電対策の制約を受ける等足かせもあり、成長のピッチは鈍い。かかる状況の下、紙・板紙の内需は、紙は広告費抑制継続等もあり微減、板紙は食品需要に支えられ微増、紙・板紙全体では前年横這いと予測した。

☆紙・板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は前年横這いの2,822万トンとなる。過去の実績値と比較すると、1990年代前半を僅かに下回り、また、過去最高の2000年(3,197万トン)に対しては9割弱(88.3%)のレベルである。

☆紙・板紙別寄与度について、紙は0.3%減、板紙は0.3%増と、板紙はプラスも、紙はマイナスの見込みである。



(2) 紙合計



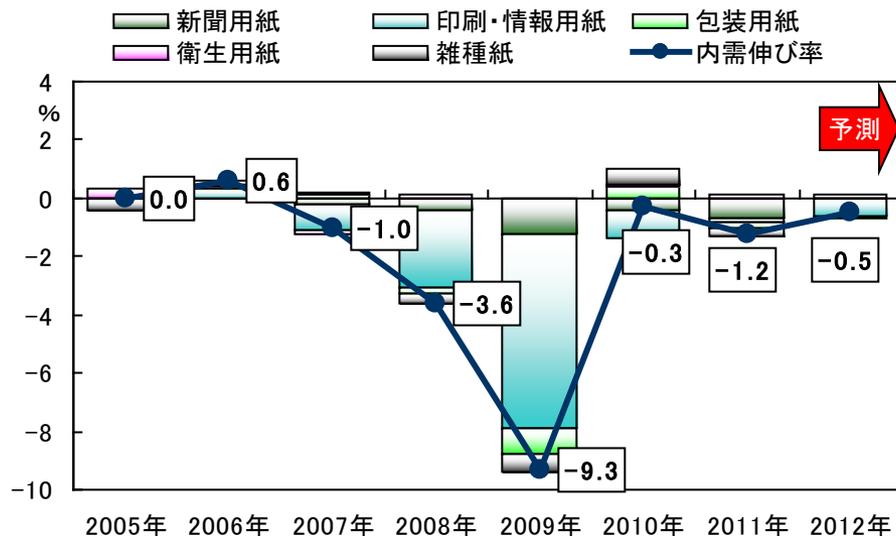
「近年の動向」

★紙の内需は2006年をピークに縮小している。特に2008年のリーマン・ショック後、大きく数量を落とした。2011年は、構造的なマイナス要因に加え、大震災の影響等もあって前年を下回り、5年連続の減少となった。サプライ別には、国内出荷は2010年から再び減少に転じた。一方、輸入は、大震災に伴う供給懸念から国産品の代替としての手当てが活発化したことや円高等から前年を大きく上回り、過去最高を更新した(25頁参照)。

「2012年予測」

☆主要品種について、新聞用紙、衛生用紙は微増を予測したが、印刷・情報用紙、包装用紙は構造的マイナス要因の定着等もあり微減、紙全体では僅かに前年を下回ると予測した。

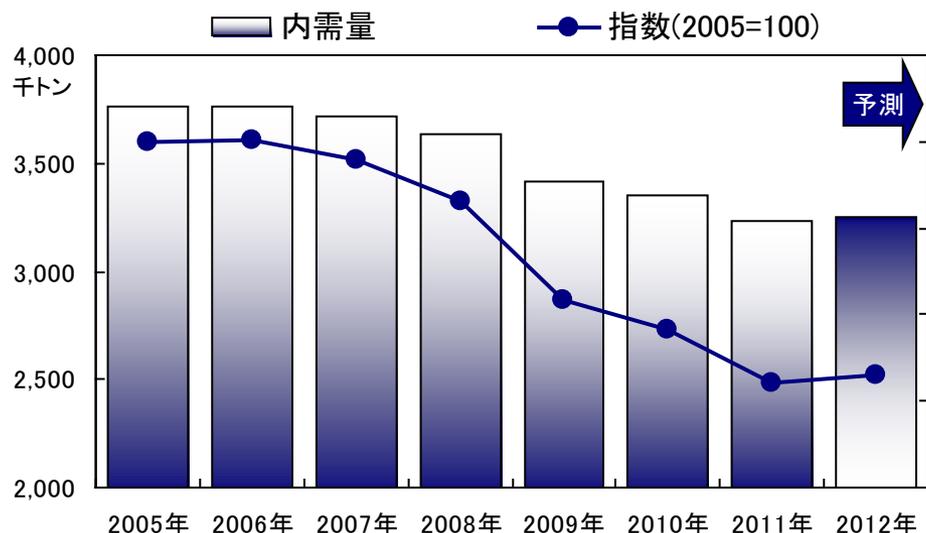
寄与度



☆紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,652万トン、前年に対して0.5%減、約9万トンの減少となる。マイナス成長は6年連続、過去の実績値と比較すると、1990年代前半、また、過去最高の2006年(1,945万トン)に対しては85%のレベルである。

☆品種別寄与度について、新聞用紙は0.1%増、印刷・情報用紙は0.6%減、包装用紙は0.1%減、衛生用紙は0.0%増の見込みである。

(3) 新聞用紙



「近年の動向」

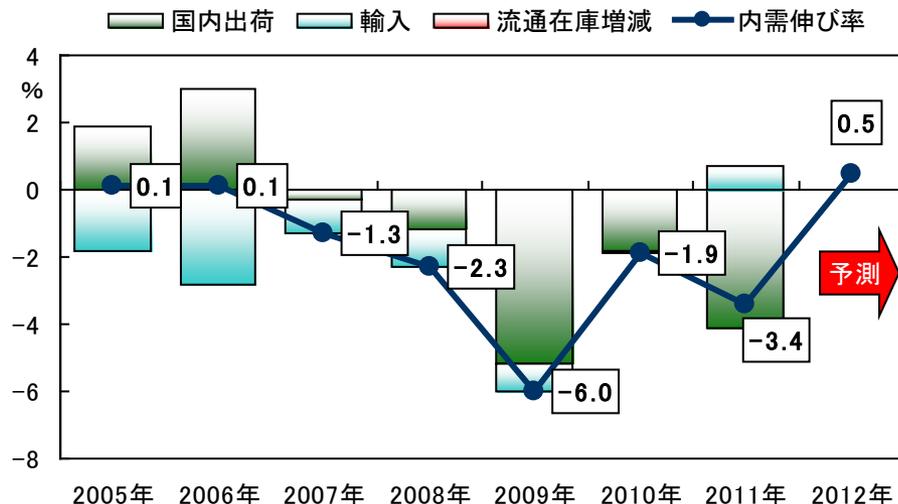
★2011年の新聞用紙の内需は、引き続きマイナスとなった。情報収集手段の変化(多様化)に伴い、若年層を中心に新聞離れが進んでいることや、広告主の紙媒体からネットへのシフトといった構造要因に加え、東日本大震災直後は、広告急減等から一時的に需要が大幅に落ち込んだ。

「2012年予測」

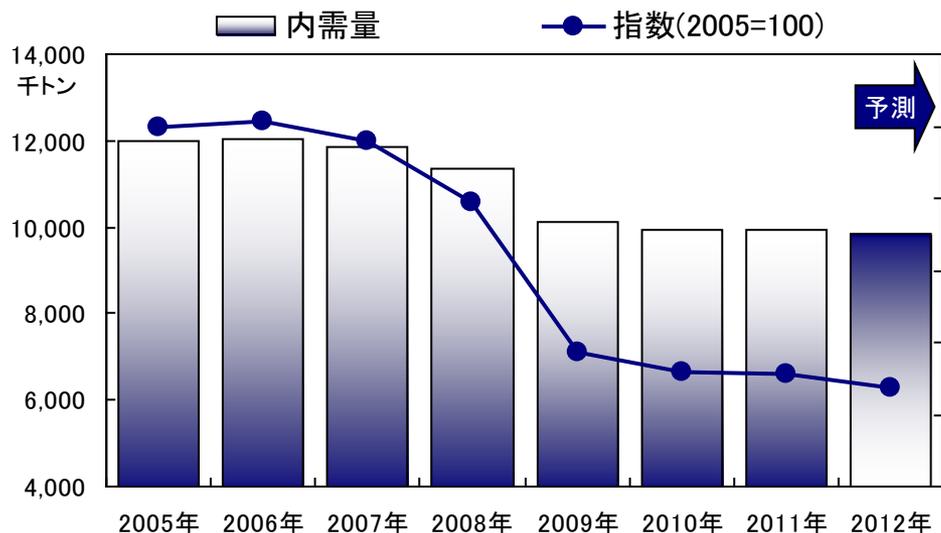
☆新聞用紙の内需は、基本的に発行部数と頁数の増減によって決まる。発行部数は、引き続き減少が見込まれるが、減少ペースは緩和される見通し。頁数については、基調として広告のネットヘシフトは続くものの、大震災後の急落の反動もあって、2012年については前年を上回る水準が期待できる。また、うるう年なので、新聞発行日数が1日増える。その他のスポット要因としては、ロンドン・オリンピック等があるが、大きな期待は持てない。

☆以上を勘案し、新聞用紙の内需は前年に対し0.5%の増加と予測した。

寄与度



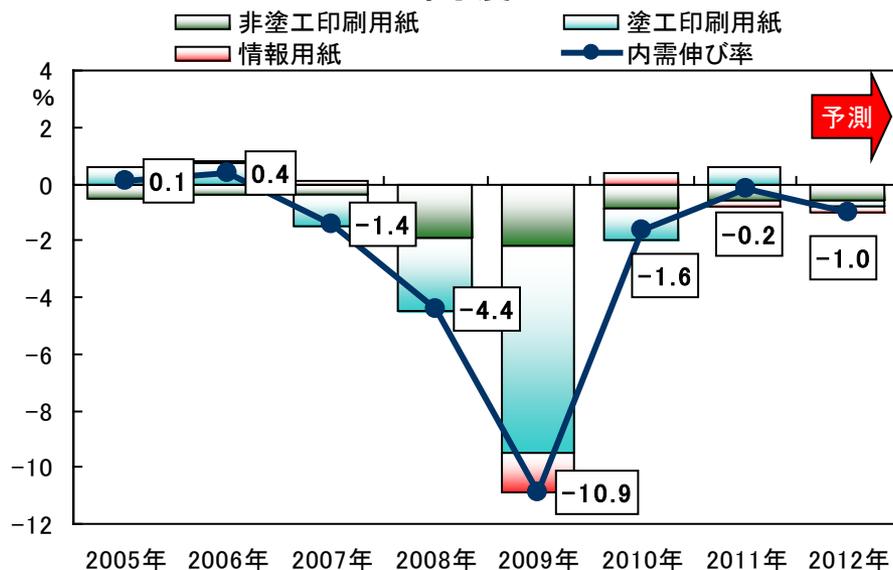
(4) 印刷・情報用紙



「近年の動向」

★印刷・情報用紙の内需は、2006年をピークに縮小しており、特にリーマン・ショック後、大きく数量を落としている。2011年は、塗工印刷用紙は5年ぶりに前年を上回ったが、大震災の影響等もあって非塗工印刷用紙、情報用紙が前年を下回り、印刷・情報用紙全体では5年連続の減少、2年連続で1,000万トン割れの水準となった。サプライ別には、国内出荷は再び減少となったが、輸入は塗工印刷用紙を中心に増加し、2009年を上回り過去最高を更新した。流通在庫は減少した(25頁参照)。

寄与度



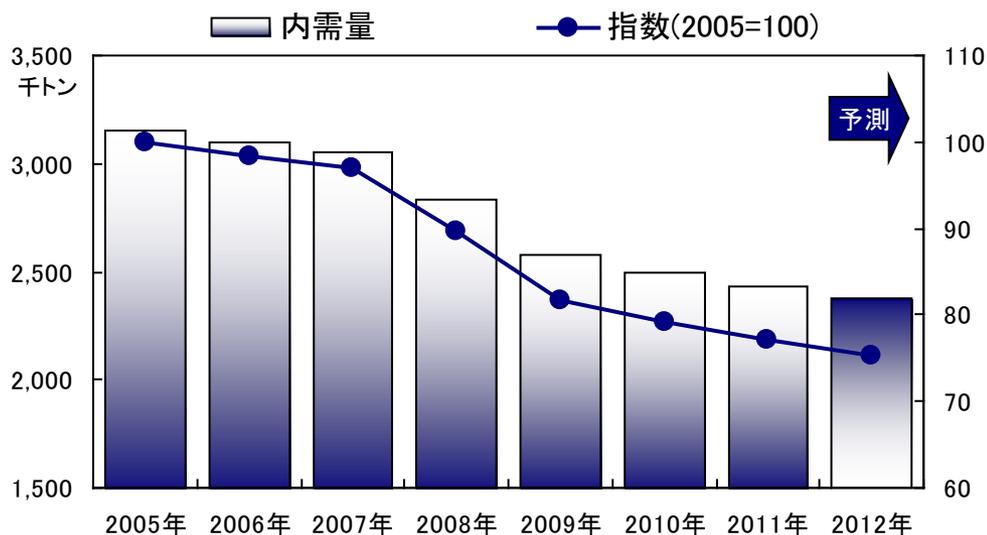
「2012年予測」

☆印刷・情報用紙の合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は983万トン、前年に対し1.0%減、約10万トンの減少となる。マイナス成長は6年連続となり、3年連続で1,000万トンを下回る見込みである。

☆品種別寄与度について、非塗工印刷用紙は0.6%減、塗工印刷用紙は0.2%減、情報用紙は0.2%減と、非塗工印刷用紙を中心にいずれもマイナスの見込みである。

☆詳細については当該品種頁参照。

(4)-① 非塗工印刷用紙



「近年の動向」

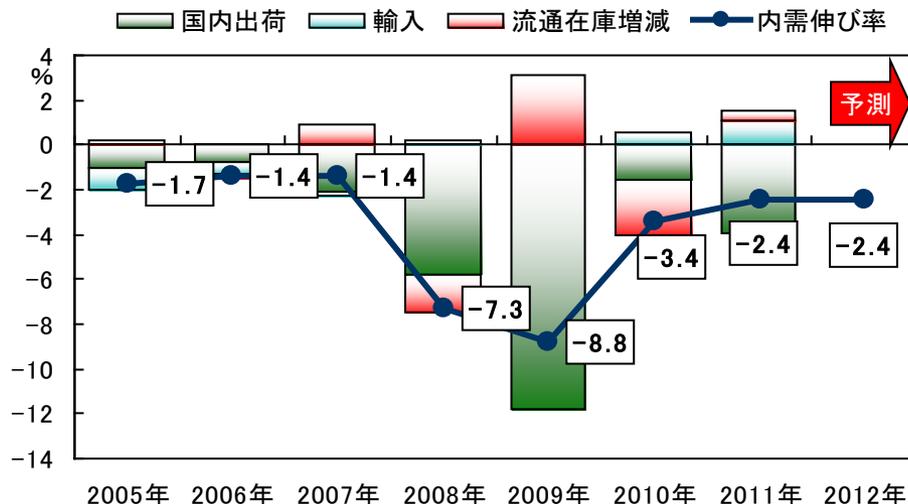
★印刷・情報用紙のうち、非塗工印刷用紙の内需は、長引く出版不況の影響等により中・下級印刷紙を中心に減少を続けている。昨年は東日本大震災の影響等により全体では前年を下回ったが、上級印刷紙は被災等により供給力の低下した品種からの代替需要もあり5年ぶりに前年を上回った。サプライ別には、国内出荷は中・下級印刷紙を中心に7年連続の減少、他方、輸入は上級印刷紙を中心に2年連続の増加となった。

「2012年予測」

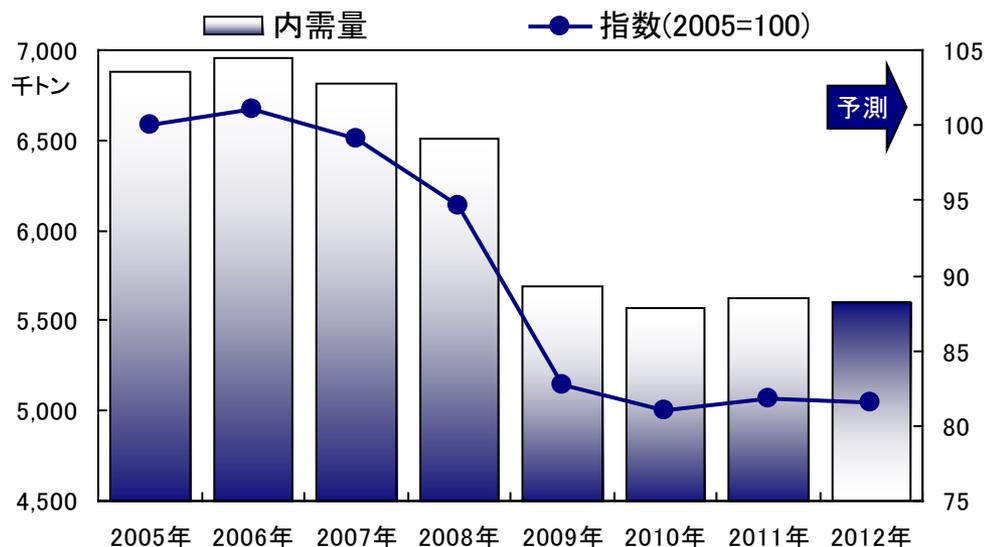
☆品種別について、上級印刷紙は、小口印刷物の内製化、電子化に伴う帳票類等の減少傾向は続くものの、汎用性の高さ等からチラシや目論見書・取扱説明書等用途は広範囲に及び、他品種からのシフトも一部予想されるため、底堅く推移するものと見られる。他方、中・下級印刷紙は、既存の出版市場の縮小(書籍は微減程度、雑誌は広告の不振、休廃刊等もあり減少)を主因に、多機能端末等電子媒体の普及等による情報源、娯楽の多様化(但し、電子書籍の影響は軽微)もあり、前年を下回るものと見られる。

☆以上を勘案し、非塗工印刷用紙の内需は前年に対し2.4%の減少と予測した。上級印刷紙はほぼ横ばいも、中・下級印刷紙を中心にダウントレンドは続くと見た。

寄与度



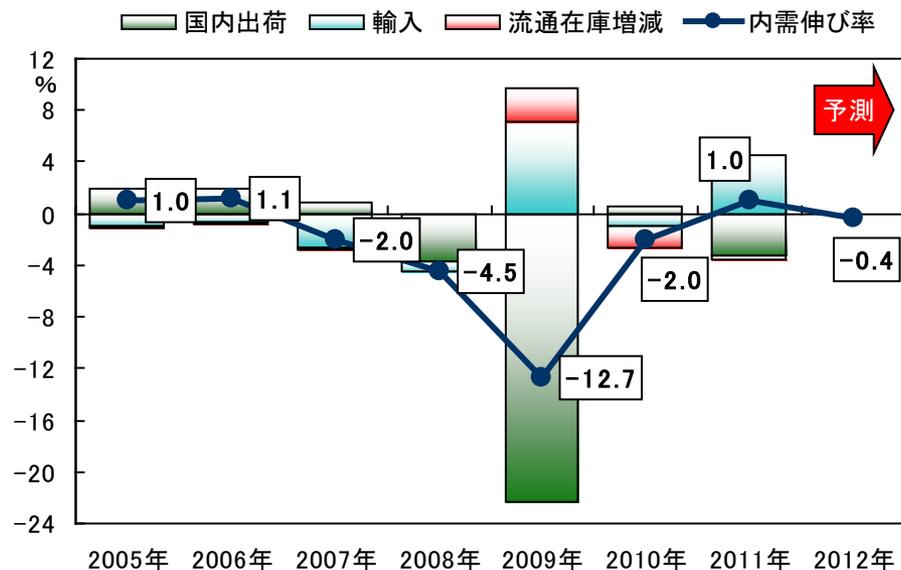
(4)-② 塗工印刷用紙



「近年の動向」

★印刷・情報用紙のうち、塗工印刷用紙の内需は、リーマン・ショック後(2009年)大きく減少し、以後底ばいで推移している。昨年は東日本大震災による主力工場の被災等から供給不安が表面化した、個人消費の委縮等から前半を中心に(チラシ出稿の自粛等)需要が落ち込んだこと、加えて需要家等による輸入手当てもあり、当初懸念されたほどの混乱もなく、全般的には弱いながらも持ち直しつつ推移した。サプライ別には、国内出荷は主力工場の被災等により2年ぶりの減少、他方、輸入は急激な円高の下、国内メーカーの供給力の低下や価格修正を背景に2009年を上回り過去最高を更新した。

寄与度

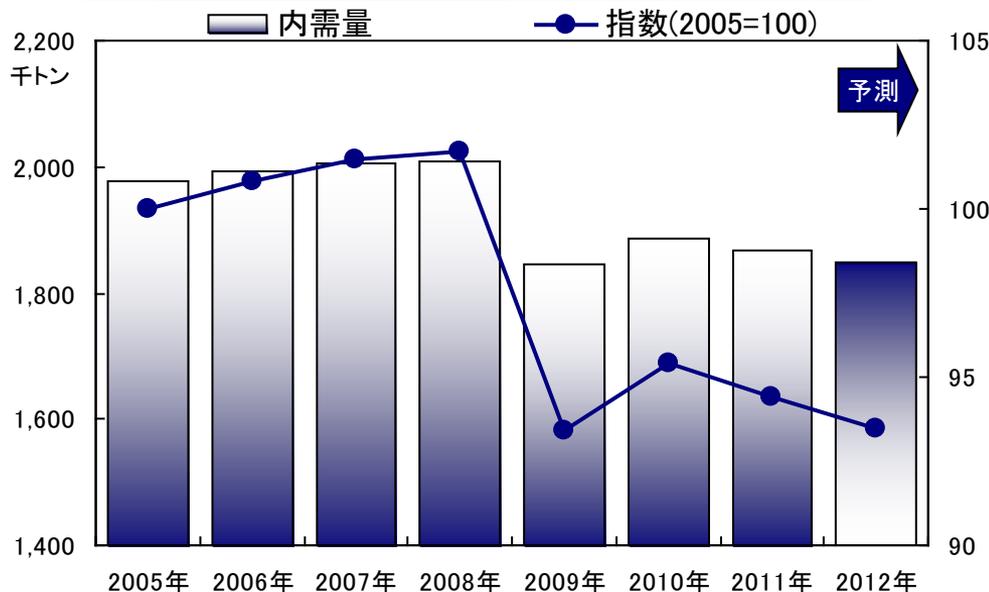


「2012年予測」

☆景気は弱いながらも回復が見込まれるものの、企業の継続的なコストダウンにより、広告宣伝費等は抑制傾向。カタログ、チラシ等は一部大震災の反動も、部数減、枚数減、サイズダウン等により全般的には低調に推移するものと見られる。また、電子チラシ、ネット広告等他の広告媒体へのシフトやグレードダウン、低米坪化も引き続き予想されるため、あまり期待は持てない。

☆以上を勘案し、塗工印刷用紙の内需は前年に対し0.4%の減少と予測した。

(4)-③ 情報用紙



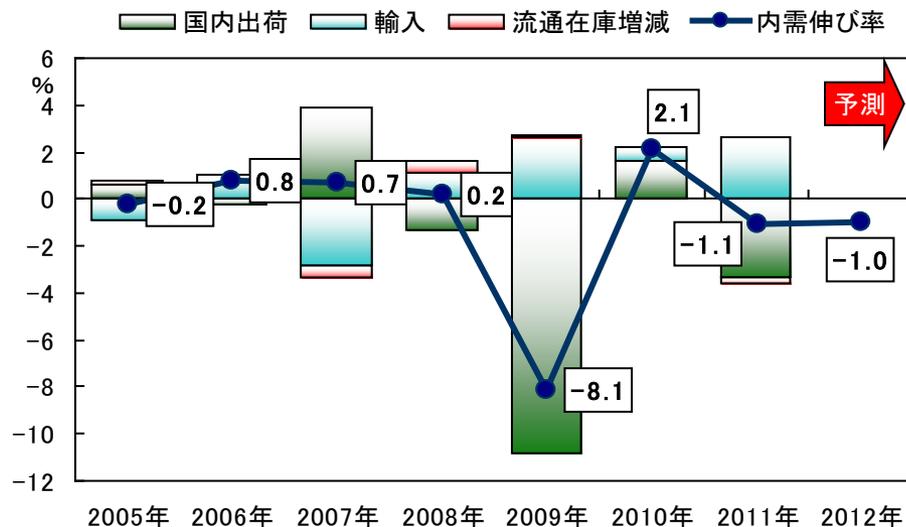
「近年の動向」

★情報用紙の内需は、2009年に大幅に減少した後、2010年は反動増や国勢調査に伴うスポット需要等から増加に転じた。2011年については、PPC用紙は大震災の影響で国内出荷が落ち込んだものの、輸入増から内需は前年を上回った。しかし、PPC用紙以外はほとんどの品種が前年を大きく下回っており、情報用紙全体としては前年割れとなっている。

「2012年予測」

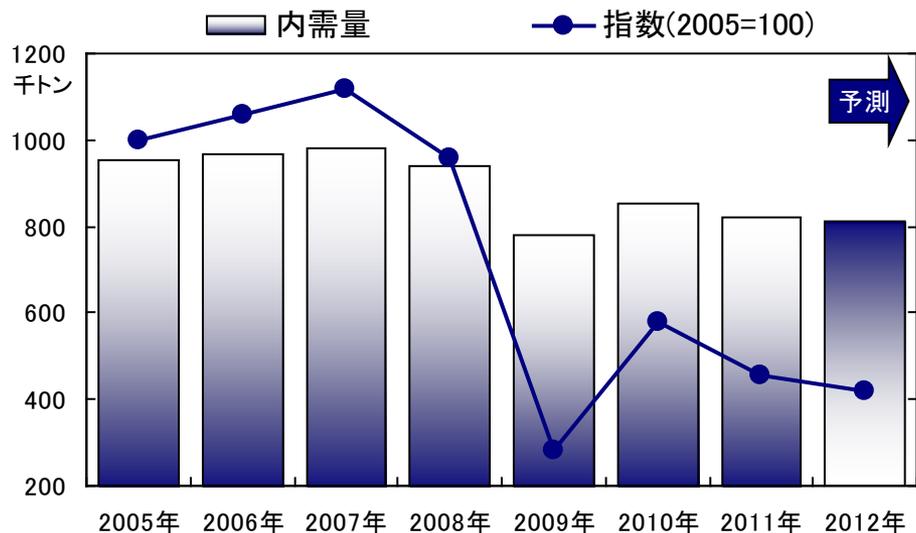
☆PPC用紙は汎用性・利便性の高さから、底堅い需要が見込まれる。ユーザーの節約志向は続いているが、他品種（ノーカーボン紙等）からのシフトもあって、前年と同水準程度は期待できる。一方、フォーム用紙は、デザインフォームのDPS向けは底堅い需要が期待できるものの、封書からハガキへの移行や、電子化、カット紙化の進展により、全体として減少継続が予想される。複写原紙についても、帳票類の減少（単票化、ペーパーレス化）等により、前年を下回る見通し。情報記録紙については、ラベル向けの感熱紙等、堅調な分野もあるが、全体として大きな期待は持てない。

寄与度



☆以上を勘案し、情報用紙の内需は前年に対し1.0%の減少と予測した。

(5) 包装用紙



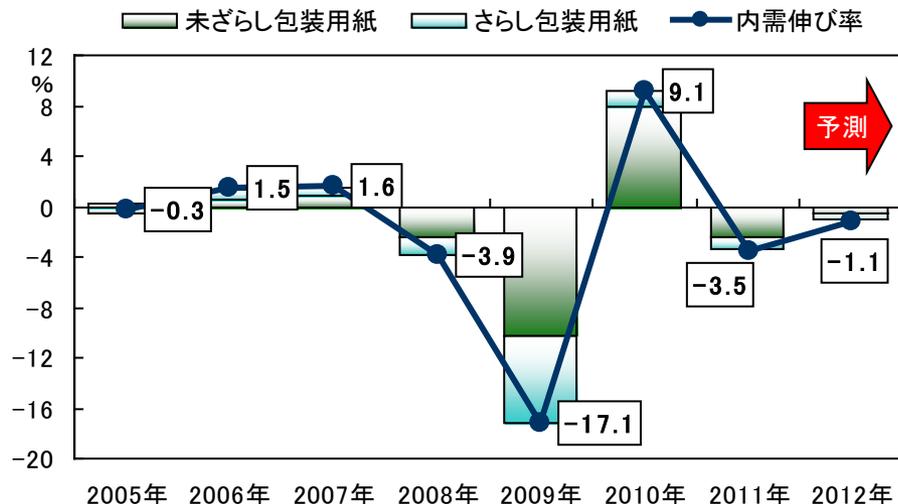
「近年の動向」

★包装用紙の内需は、2002年以降、2007年までの間は横ばい状態(95万トン前後)であったが、2008年は秋以降の急速な景気悪化により前年を下回り、2009年は景気低迷の本格化により急減した。2010年は、前年の大幅減の反動もあって1割近い伸びを示したものの、2011年は大震災の影響等もあり再び減少に転じた。

「2012年予測」

☆品種別にみると、①未ざらし包装用紙は、円高や世界的な景気減速による需要業界の輸出不振、企業の海外生産シフト等により合成樹脂・化学薬品向けの重包装用を中心に前年を下回るものとみられる。②さらし包装用紙は、個人消費の回復が弱いことに加えて、企業のコスト削減や環境への配慮から未ざらし包装用紙へのシフト傾向が継続すること等により、袋用を中心に減少が見込まれる。

寄与度

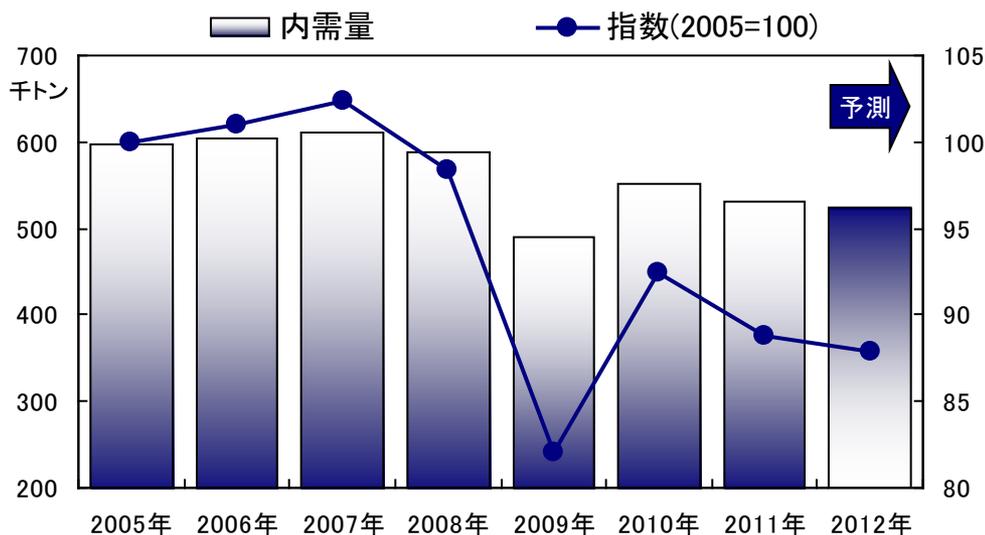


☆包装用紙について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は81.4万トン、前年に対し1.1%の減少となり、直近ピークの2007年に対しては17.0%、16.7万トンの減少となる。

☆品種別寄与度は、未ざらし包装用紙が0.7%減、さらし包装用紙が0.4%減の見込みである。

☆詳細については当該品種頁参照。

(5) - ① 未ざらし包装用紙



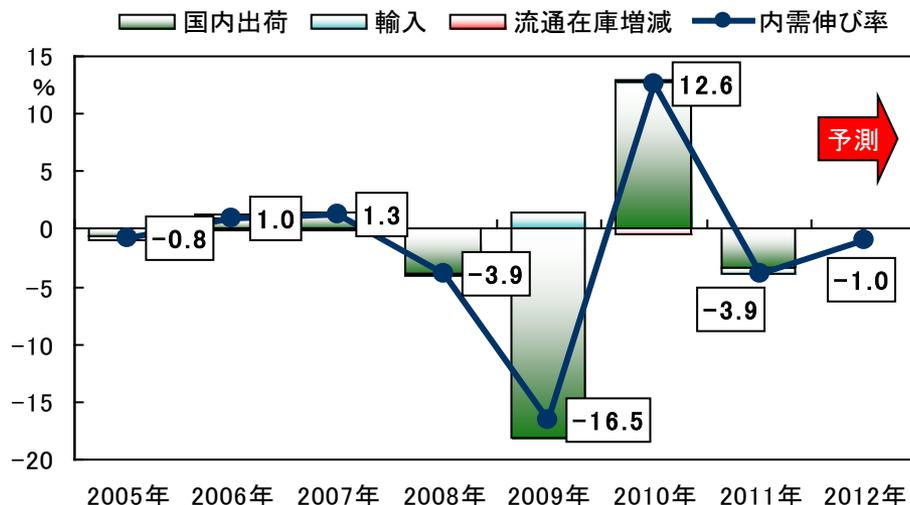
「近年の動向」

★未ざらし包装用紙の内需は、2002年以降、2007年までの間はほぼ横ばい(60万トン前後)で推移した。しかし、2008年は秋以降の景気後退による需要業界の低迷等により減少、2009年は景気低迷の本格化により急激な落ち込みとなった。2010年は、前年の反動もあって1割以上の高い伸びを示したものの、2011年は大震災の影響等により再び減少に転じた。

「2012年予測」

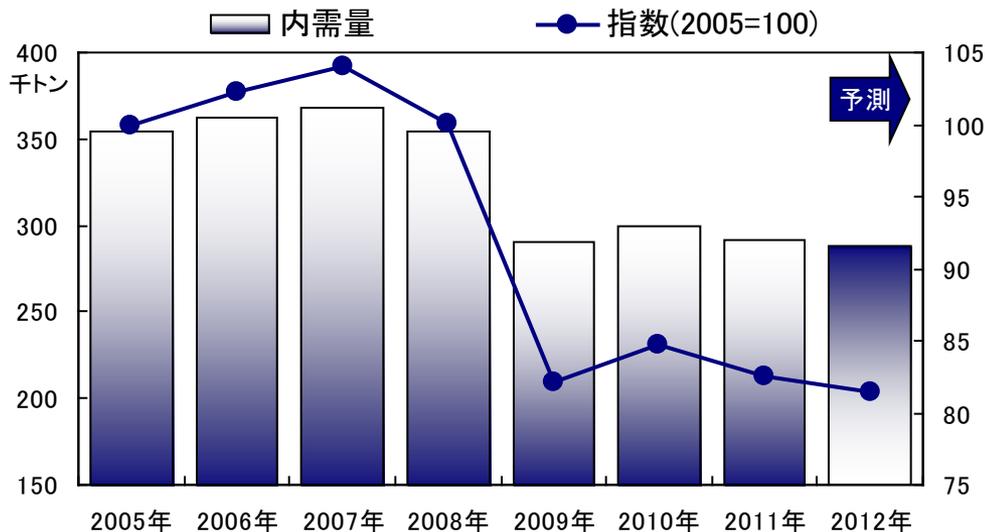
☆品種別にみると、全体の約6割を占める①重袋用両更クラフト紙は、米麦・製粉等の食品向けは前年並みを維持するものの、円高や世界的な景気減速による需要業界の輸出不振、企業の海外生産シフト等の影響から合成樹脂・化学薬品向けを中心に前年を下回ることが予想される。②その他両更クラフト紙は、企業のコスト削減や環境への配慮を目的とした、さらし包装用紙からのシフトによる袋用の需要増が見込まれるが、それ以外の包装用については、省包装化等により減少傾向が続く。封筒用についても圧着ハガキへのシフト等により前年を下回ることが予想される。

寄与度



☆以上を勘案し、未ざらし包装用紙の内需は前年に対し1.0%の減少と予測した。

(5) – ② さらし包装用紙



「近年の動向」

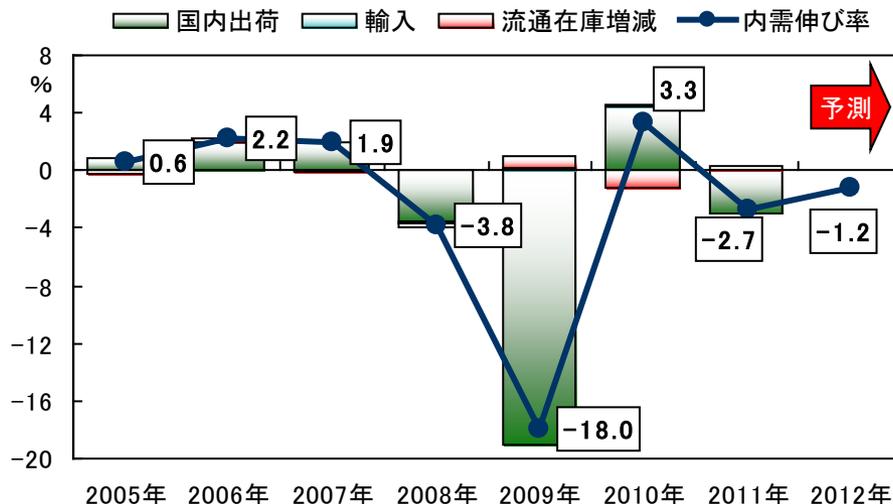
★さらし包装用紙の内需は、2003年を底に2007年までの間は微増傾向で推移してきた。しかし、2008年は秋以降の景気後退による需要業界の低迷等により減少、2009年は2割近い急激な落ち込みとなった。2010年は、前年の大幅減の反動もあって3年ぶりに増加したものの、2011年は大震災の影響等により再び減少に転じた。

「2012年予測」

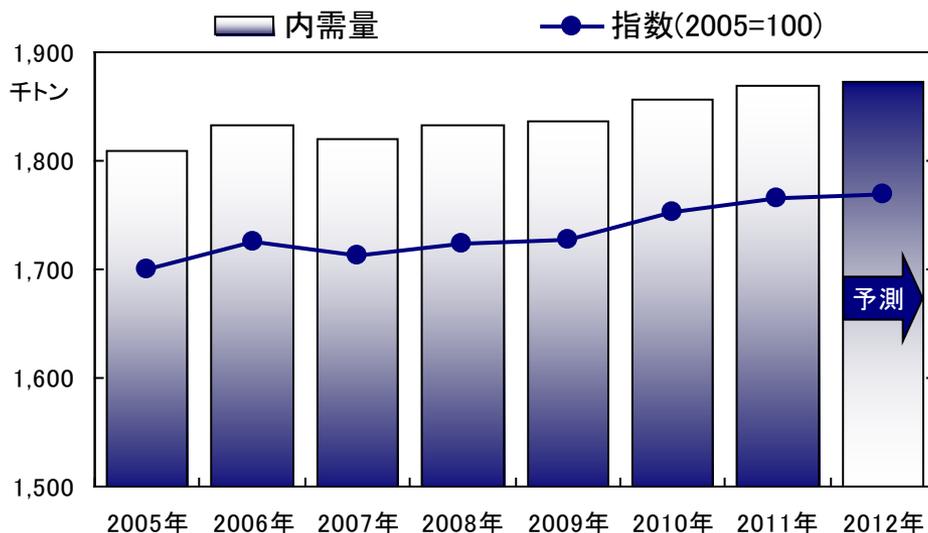
☆品種別にみると、①さらしクラフト紙については、手提袋用は、大震災による落ち込みの反動増が期待されるが、企業のコスト削減や環境への配慮から未ざらし包装用紙へのシフト傾向が継続するとみられること等から、減少が予想される。封筒用も、引き続き企業の経費削減やDMの圧着ハガキへのシフト等により減少が予想される。②純白ロール紙については、包装用は、省包装化等により減少傾向が続く。また、加工用については、食品・薬品向けの包材用等は底堅い需要があるものの、その他の需要分野では需要増が見込めず、全体としては減少が予想される。

☆以上を勘案し、さらし包装用紙の内需は前年に対し1.2%の減少と予測した。

寄与度



(6) 衛生用紙



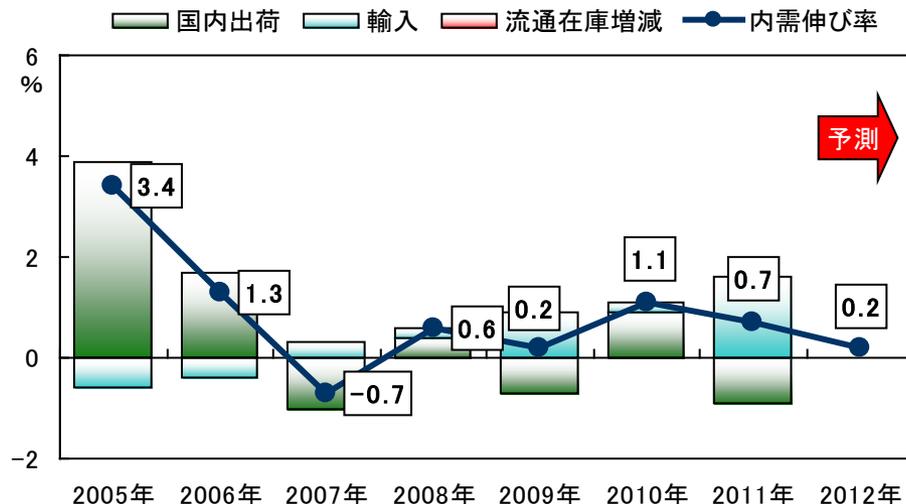
「近年の動向」

★衛生用紙の内需は、2008年のリーマン・ショック以降、紙の主要品種の需要が軒並み減少傾向にある中で、生活必需品として底堅く推移している。2011年は、大震災直後の特需等もあって僅かながらも前年を上回り、4年連続の増加となった。サプライ別には、国内出荷は微減、一方、輸入は大幅な増加となり、5年連続で前年を上回った。

「2012年予測」

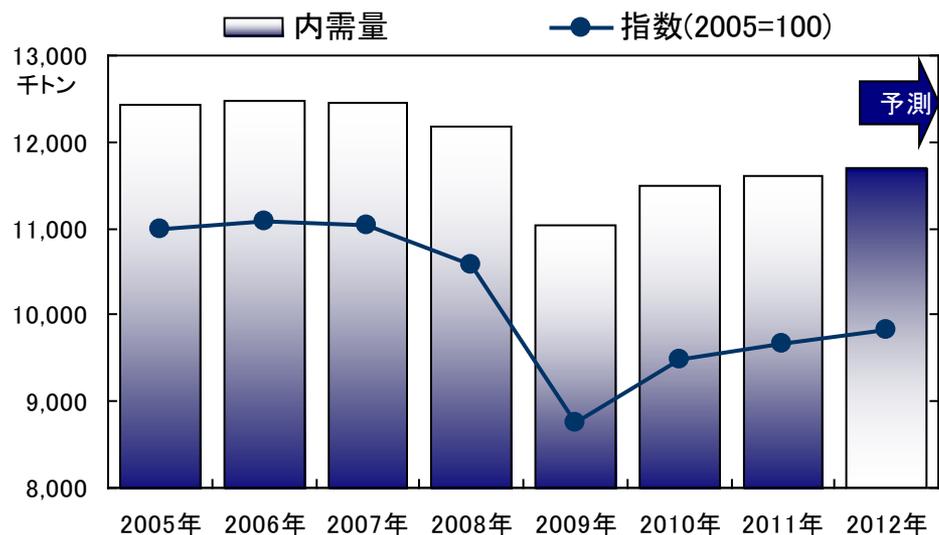
☆衛生用紙は、生活必需品として底堅いことに加え、本年はうるう年であること等から微増を予想する。品種別にみると、①ティシュペーパーについては、花粉飛散量の減少が予測されていることから花粉症用の需要増は期待できない。②トイレtpーパーについては、大震災により大きく落ち込んだ外国人観光客の回復等により業務用の需要増が見込まれる。③タオル用紙については、予防衛生意識の定着等により前年横ばい若しくは微増を見込む。

寄与度



☆以上を勘案し、衛生用紙の内需は前年に対し0.2%の増加と予測した。

(8) 板紙合計



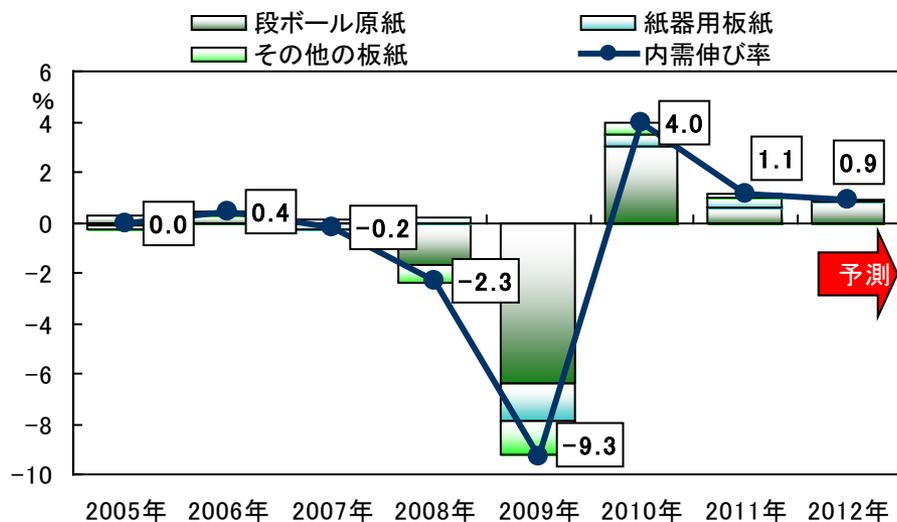
「近年の動向」

★板紙の内需は、リーマン・ショック後の2009年に大きく減少し、2010年は前年の大幅減の反動から4年ぶりに増加に転じた。2011年は大震災の影響により需要は一時停滞したが、食品分野が堅調に推移したことや被災地への支援物資の搬送等もあり、2年連続のプラスとなった。サプライ別には、国内出荷は増加し、輸入は減少した(25頁参照)。

「2012年予測」

☆主要品種について、主力の段ボール原紙は1.0%の増加、紙器用板紙は0.6%増(うち白板紙は0.7%増)と、緩やかな伸びにとどまる。

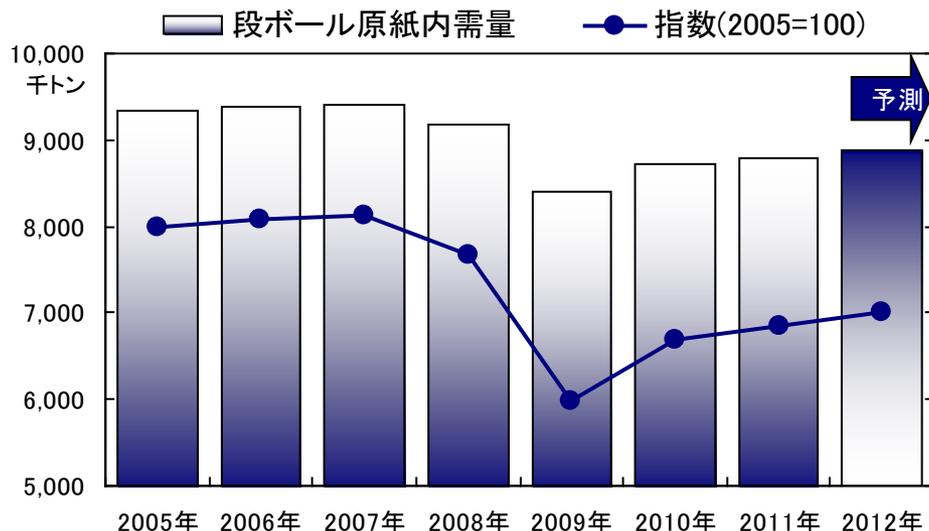
寄与度



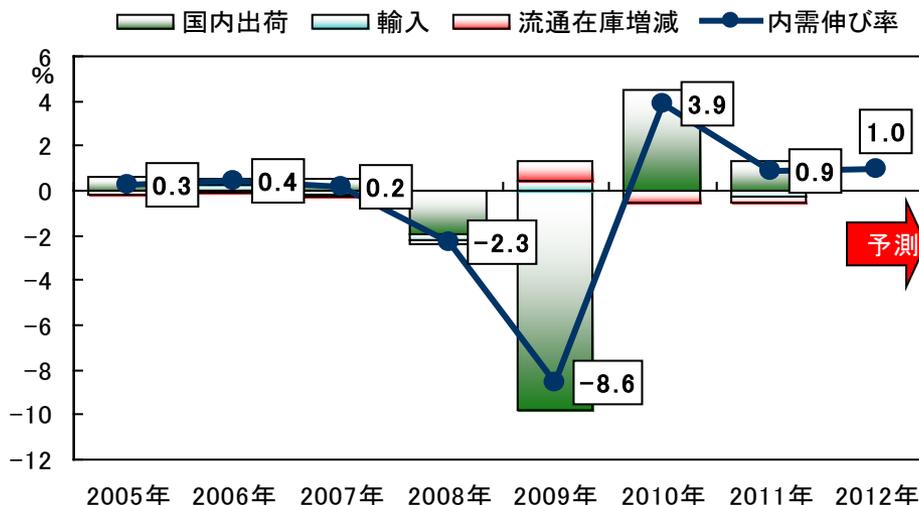
☆板紙合計について、品種別試算結果を積み上げると、内需量は1,171万ト、前年に対して0.9%増、10万トの増加となる。3年連続のプラス成長も、過去の実績値と比較すると、1993年当時の水準、また過去最高の1997年(1,282万トン)に対しては9割強(91.3%)のレベルである。

☆品種別寄与度について、段ボール原紙は0.8%増、紙器用板紙は0.1%増と、主力の段ボール原紙が牽引する。

(9) 段ボール原紙①



寄与度



「近年の動向」

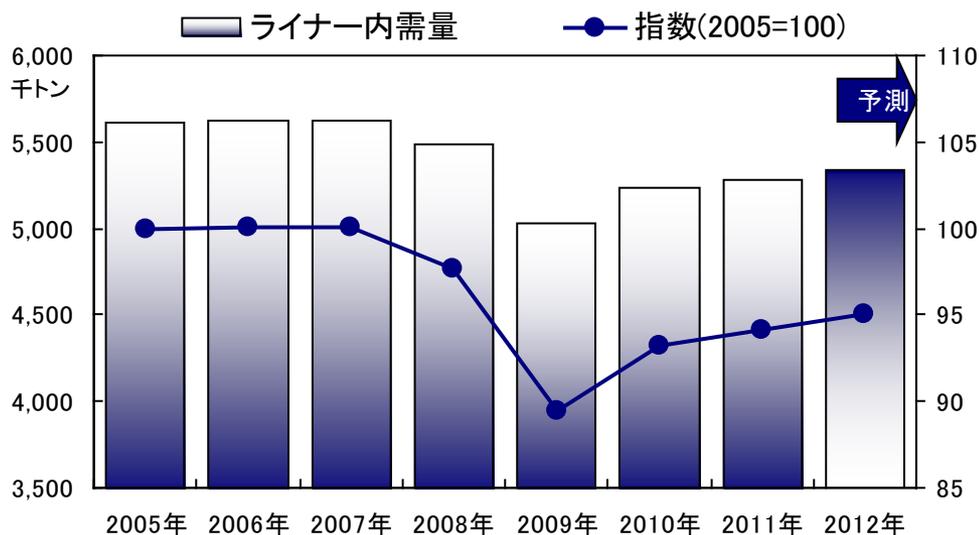
★段ボール原紙は微増で推移してきたが、2008年に経済状況の悪化により6年ぶりのマイナスとなり、2009年は前年からの長引く景気低迷の影響から大幅なマイナスとなった。2010年は前年の落ち込みの反動等から3年ぶりのプラス、2011年は内食化継続を背景に食品需要が堅調だったこともあり2年連続のプラスとなった。

「2012年予測」

☆段ボールシート生産は、全段連の需要予測では1.2%増とみられている。工業製品等の電気・機械器具向けは地デジ需要の反動減等からマイナスが予想されるものの、加工食品等の食品向けは内食化継続が引き続きプラスに寄与すると見られる。また段ボール原紙の需要については、前年の価格修正による段メーカーの在庫調整や需要業界のコスト削減に伴う薄物化が予想される。

☆以上を勘案し、段ボール原紙の内需は前年に対し1.0%の増加(ライナー1.0%増、中しん原紙1.0%増)と予測した。

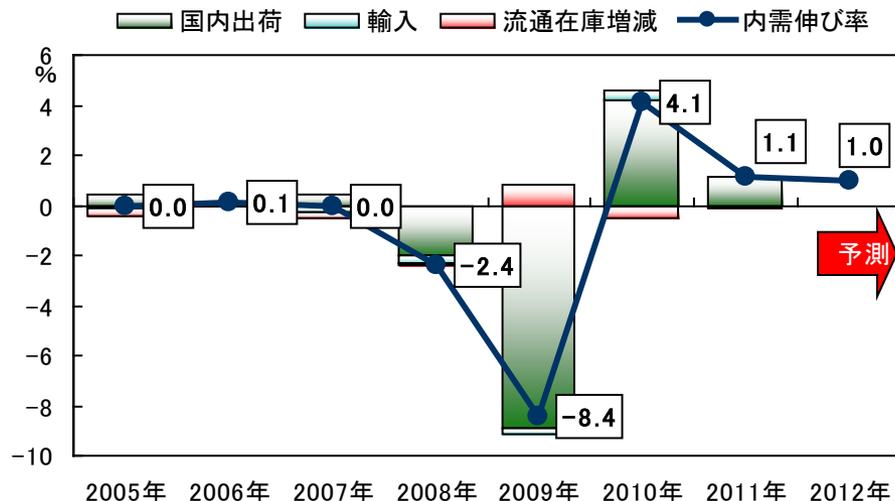
(9) 段ボール原紙②



「2012年予測:分野別の需要動向」

☆加工食品(2011年1-10月需要部門別構成比:41.0%)は、節約志向から内食化が継続しレトルト食品や冷凍食品等は増加が見込まれ、また菓子関係もチョコレートを中心に需要増が見込まれる。飲料関係では、ビール類は、「新ジャンル」が低価格志向から増加しているものの、「ビール」、「発泡酒」は引き続き減少傾向であり、ビール類全体では期待できない。清涼飲料は、炭酸飲料が堅調に推移しているものの、ミネラルウォーターが前年の大震災・原発事故に起因する備蓄・生活水確保による大幅増の反動が予想されるため、全体として伸びは期待できない。

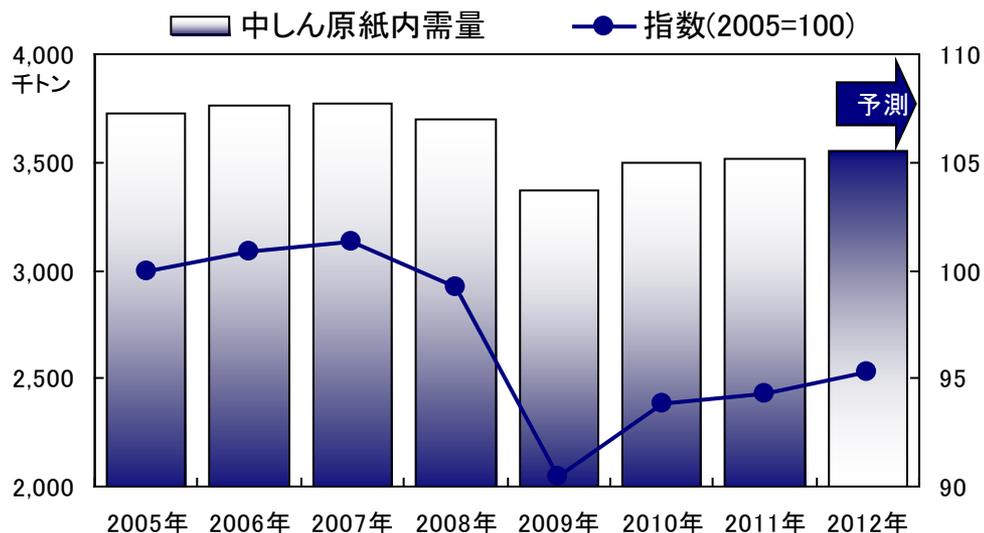
寄与度



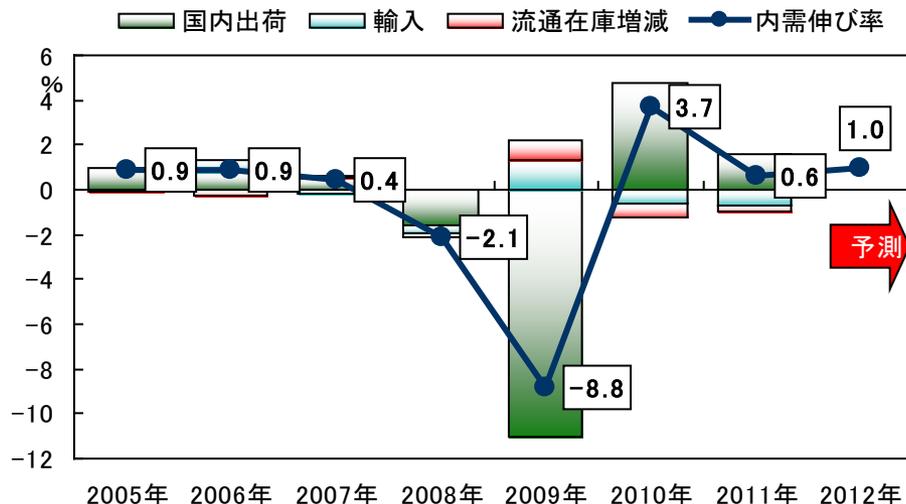
☆青果物(構成比:11.7%)は、作付面積の減少傾向といったマイナス要因はあるものの、内食化継続はプラスに寄与すると見られ、またここ数年の天候不順の影響による記録的な低出荷の反動も期待されることから、増加が予想される。

☆電気器具・機械器具(構成比:8.4%)は、エコカー補助金の復活や住宅需要の増加、復興需要の恩恵は期待できるが、前年の地デジ需要の反動減や円高等を背景とした輸出への影響も懸念され、減少が予想される。

(9) 段ボール原紙—③



寄与度



「2012年予測:分野別の需要動向」

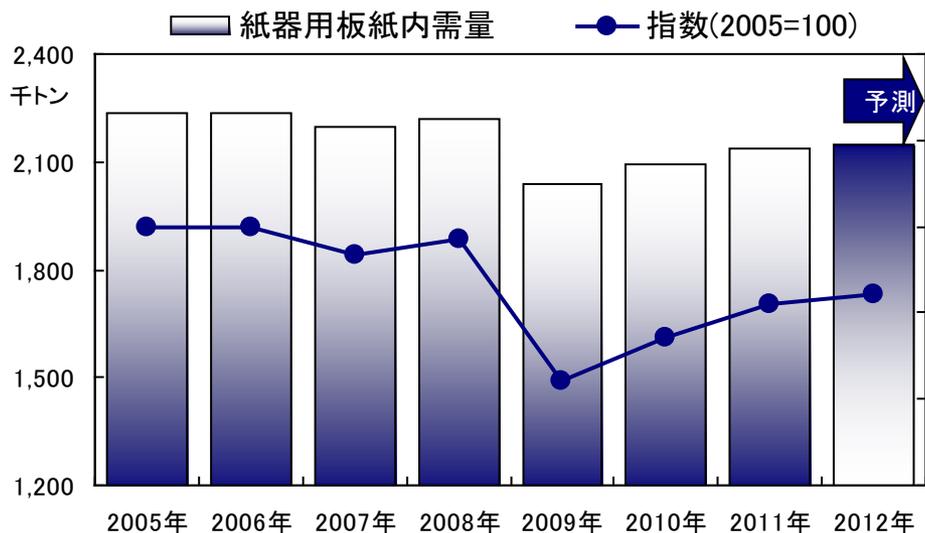
☆薬品・洗剤・化粧品(構成比:6.0%)は、ジェネリック医薬品への普及促進策に伴う需要増、美容分野や漢方薬の増加、節電対策を背景とした制汗剤等暑さ対策商品の増加も期待され、前年を上回ることが予想される。

☆陶磁器・ガラス製品・雑貨(構成比:5.7%)は、廉価な輸入品の流入は懸念されるものの、住宅需要の増加や復興需要の恩恵も期待されることから、増加が予想される。

☆通販・宅配(構成比:3.4%)は、通販市場の充実化や家ナカブーム等を背景に拡大しており、今後もこの傾向は継続すると予想される。

☆繊維製品(構成比:2.3%)は、輸入品の増加はあるが、節電意識の高まりからクールビズやウォームビズ分野は増加が期待され、また低価格品市場も引き続き堅調と見られることから、前年を上回ることが予想される。

(10) 紙器用板紙—①



「近年の動向」

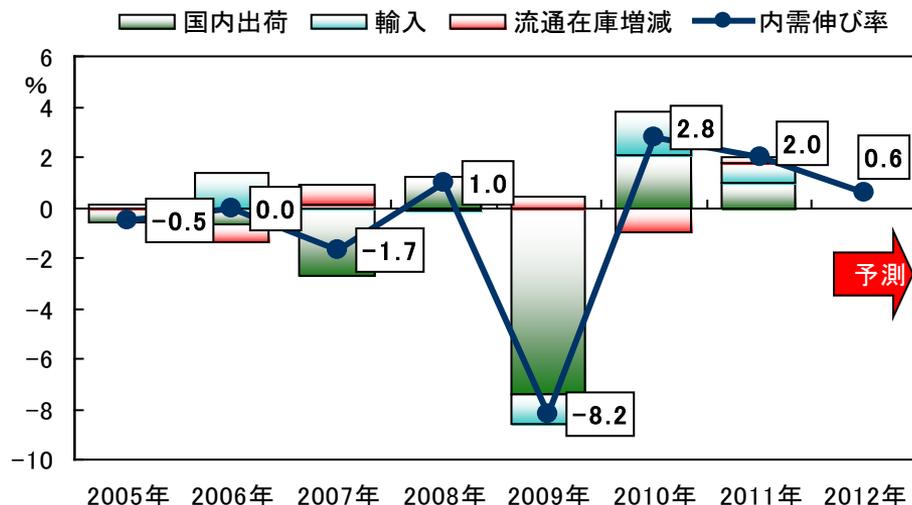
★紙器用板紙の内需はほぼ横ばいで推移していたが、2009年は長引く景気低迷から8.2%減と大きく落ち込んだ。2010年は前年の大幅減の反動から2.8%増とプラスに転じ、2011年も大震災後の支援物資需要もあり2年連続のプラスとなった。

「2012年予測」

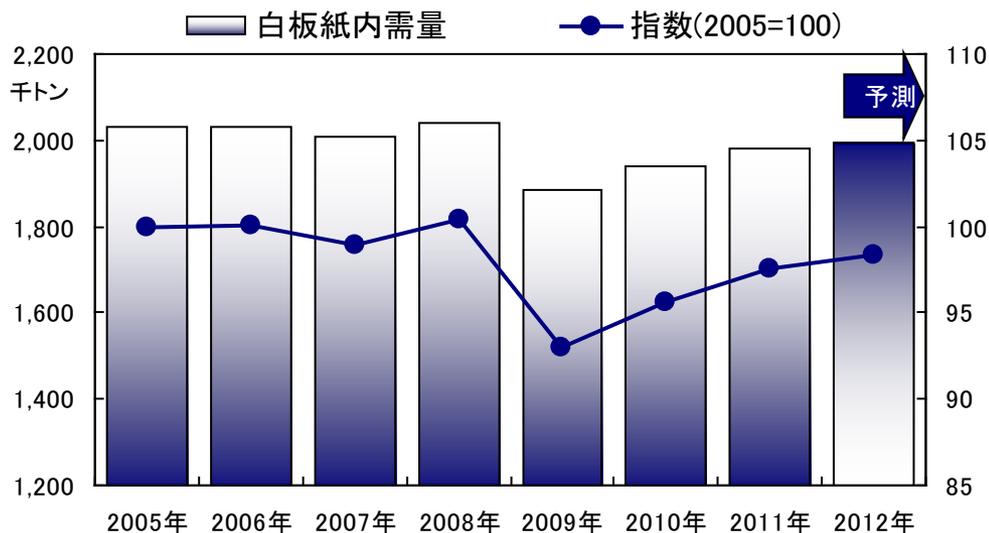
☆需要家のコスト意識から、箱の小型化や軟包装化といったコスト削減への動きは引き続き予想されるも、内食化継続により食品関連は堅調と見られ、大震災後の自粛ムードに伴う土産品等の落ち込みの反動も期待されることから、増加が予想される。

☆以上を勘案し、紙器用板紙の内需は前年に対し0.6%の増加(白板紙0.7%増、黄・チップ・色板紙0.0%)と予測した。

寄与度



(10) 紙器用板紙—②



「2012年予測:分野別の需要動向」

☆食品は、節約志向を背景に内食化は継続すると見られる。その中で、レトルト食品は簡便性や低価格志向からカレー類を中心に堅調と見られ、菓子関係は手作りチョコの需要拡大等もあり増加が期待される。また本年はうるう年で前年より一日多いこともプラスに寄与し、全体では前年を上回ることが予想される。

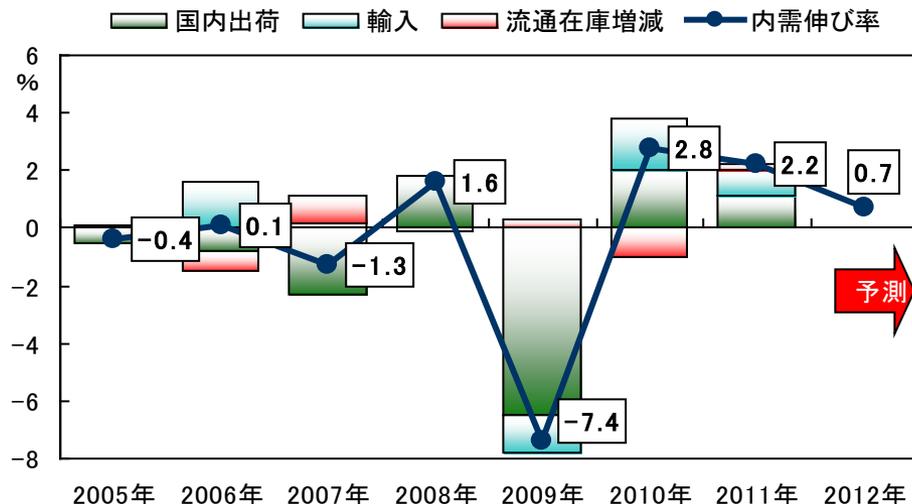
☆医薬・化粧品は、ジェネリック医薬品の普及による需要増や、漢方薬や美容分野の増加、更に節電対策を背景に暑さ対策商品の需要増も期待される。また大手ドラッグストアや調剤薬局が大量出店を計画していることもプラス要因となり、増加が予想される。

☆洗剤向けは、粉末から液体へのシフトは一巡したことから、前年並みと予想される。

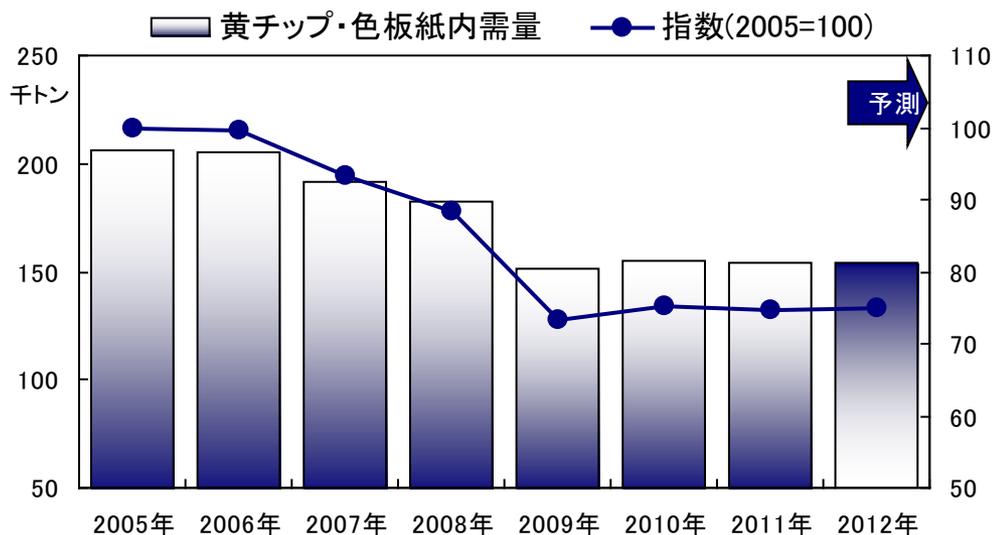
☆ティッシュ向けは、消費者の節約志向や花粉飛散量の減少予測もあり、前年を下回ることが予想される。

(次頁に続く)

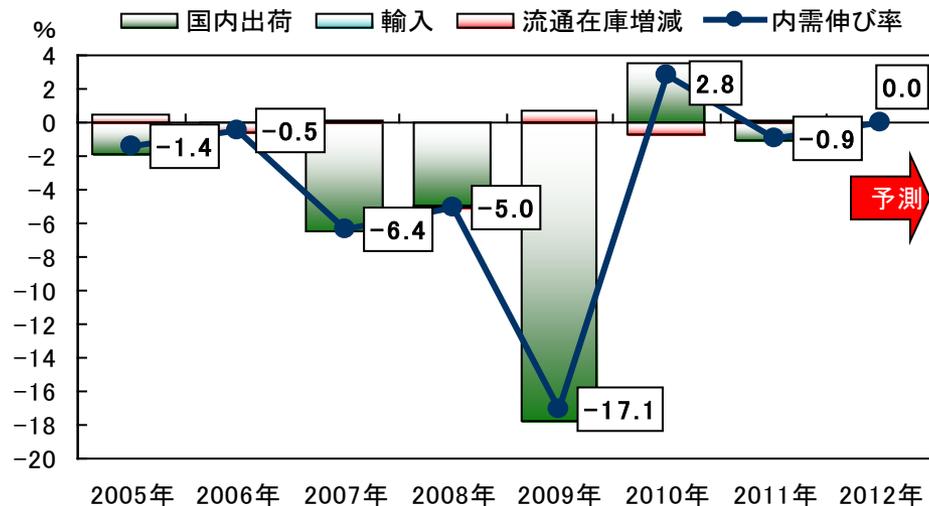
寄与度



(10) 紙器用板紙—③



寄与度



「2012年予測:分野別の需要動向」

☆商業印刷は、店頭販促品であるPOPやトレーディングカードは堅調とみられる。また前年は大震災後の自粛ムードからコンサート等のイベント関係が広く中止されたことから、その反動による需要増も期待され、増加が予想される。

☆出版印刷は、人口減、活字離れ等を背景に、定期刊行物の休廃刊や発行部数の減少が懸念されるため、雑誌の表紙やハードカバーの芯等については引き続き減少すると見られる。

☆文具事務用品は、少子化やOA化の浸透等を背景にファイル類の減少傾向は継続すると見られる。

Ⅲ. 2011年紙・板紙内需実績見込み

(単位:トﾝ、%)

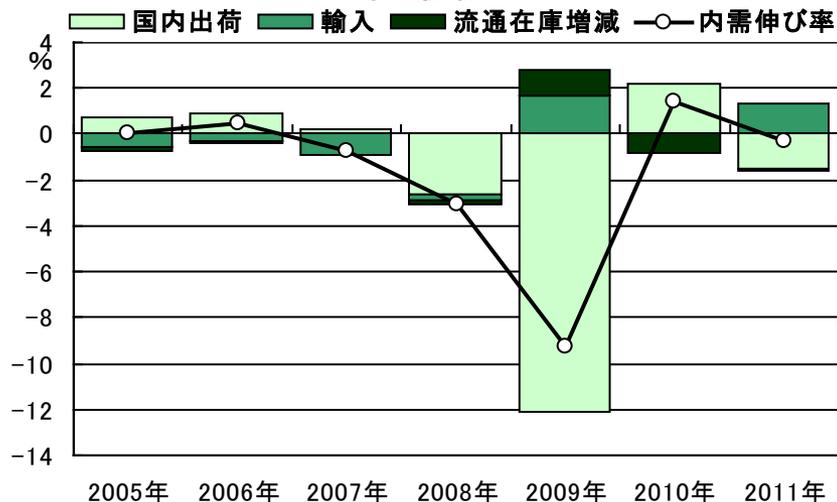
品 種	国内出荷		輸 入		計		流通在庫増減	内 需 計		11年連合会 内需予測 (B)	伸び率誤差 (A)-(B)	
		前年比		前年比		前年比			前年比(A)			
紙	新聞用紙	3,172,742	95.9	63,072	158.2	3,235,814	96.6	0	3,235,814	96.6	97.7	▲ 1.1
	非塗工印刷用紙	2,197,683	95.7	235,257	113.4	2,432,940	97.2	72	2,432,868	97.6	97.6	0.0
	塗工印刷用紙	4,676,285	96.2	938,669	137.3	5,614,954	101.2	▲ 12,402	5,627,356	101.0	99.0	2.0
	情報用紙	1,395,184	95.7	475,786	111.4	1,870,970	99.3	4,751	1,866,219	98.9	98.8	0.1
	印刷・情報用紙計	8,269,152	96.0	1,649,712	125.2	9,918,864	99.9	▲ 7,579	9,926,443	99.8	98.6	1.2
	未ざらし包装紙	522,521	96.5	10,285	82.1	532,806	96.2	2,078	530,728	96.1	99.0	▲ 2.9
	ざらし包装紙	291,229	97.1	1,227	92.5	292,456	97.0	603	291,853	97.3	99.3	▲ 2.0
	包装用紙計	813,750	96.7	11,512	83.1	825,262	96.5	2,681	822,581	96.5	99.1	▲ 2.6
	衛生用紙	1,775,866	99.1	93,631	146.0	1,869,497	100.7	0	1,869,497	100.7	99.9	0.8
	雑種紙	730,446	93.9	19,511	99.6	749,957	94.0	0	749,957	94.0	99.3	▲ 5.3
紙 計	14,761,956	96.3	1,837,438	126.2	16,599,394	98.9	▲ 4,898	16,604,292	98.8	98.6	0.2	
板紙	ライナー	5,193,462	101.1	87,680	100.7	5,281,142	101.1	▲ 1,096	5,282,238	101.1	100.8	0.3
	中しん原紙	3,498,921	101.6	21,160	45.0	3,520,081	100.8	4,875	3,515,206	100.6	100.8	▲ 0.2
	段ボール原紙計	8,692,383	101.3	108,840	81.2	8,801,223	101.0	3,779	8,797,444	100.9	100.8	0.1
	白板紙	1,503,572	101.5	480,323	103.8	1,983,895	102.0	2,605	1,981,290	102.2	100.3	1.9
	黄チップ・色板	153,941	99.0	0	-	153,941	99.0	▲ 25	153,966	99.1	100.0	▲ 0.9
	紙器用板紙	1,657,513	101.3	480,323	103.8	2,137,836	101.8	2,580	2,135,256	102.0	100.3	1.7
	その他の板紙	658,192	101.2	13,271	73.6	671,463	100.4	▲ 271	671,734	100.6	100.6	0.0
板紙計	11,008,088	101.3	602,434	98.0	11,610,522	101.1	6,088	11,604,434	101.1	100.7	0.4	
紙・板紙計	25,770,044	98.3	2,439,872	117.8	28,209,916	99.8	1,190	28,208,726	99.7	99.5	0.2	

注) 衛生用紙について、輸入には原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品としてトイレットペーパーに加え、新たにティッシュペーパーを追加した。

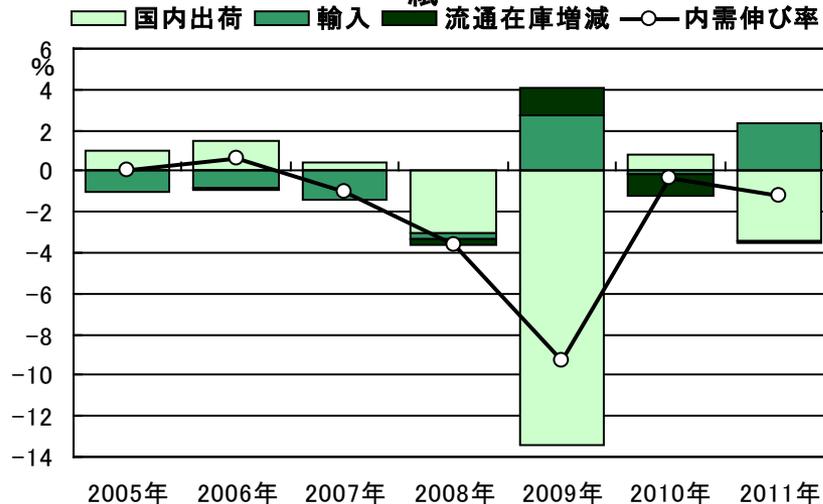
但し、年初の見通し(11年連合会内需予測)では反映されていない。

IV. 参考①サプライ別内需寄与度の推移

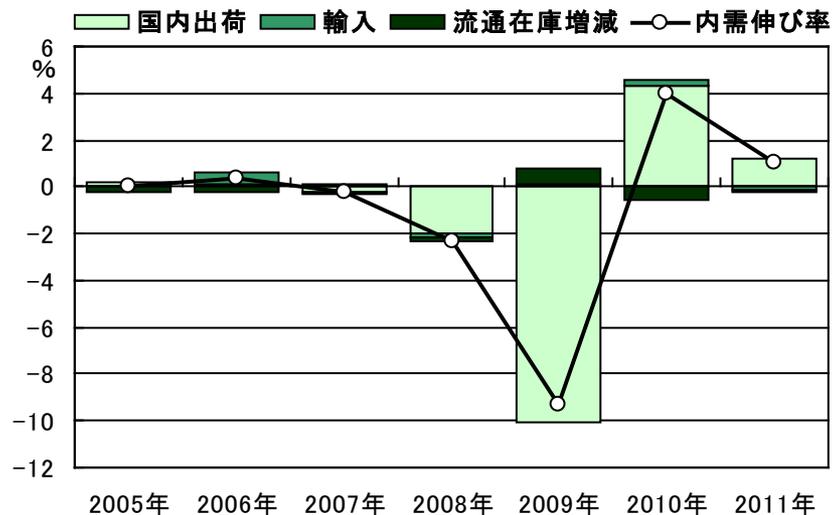
紙・板紙



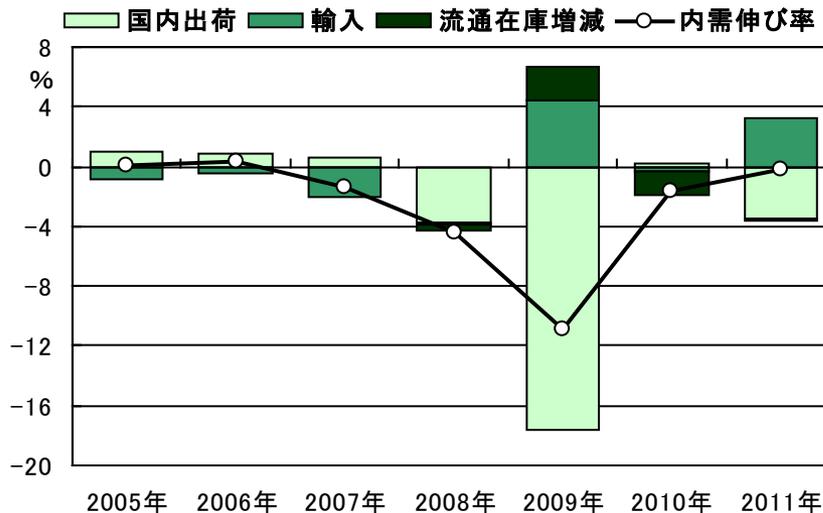
紙



板紙



印刷・情報用紙



参考②

内需の定義について

「内需」は、国内出荷に輸入を加えた上で、流通在庫の増減分を加味して算出している。なお、輸入には、「原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品及び原紙に類似した紙製品」として、ティシュペーパー、トイレットペーパー及びミルクカートン用紙(ポリエチレンラミネートしたもの)を含めている。

$$\text{内需量} = \text{国内出荷量} + \text{輸入量} + \text{流通在庫量の前年比増減量}$$

予測の仕方について

内需量は主要品種別に、ユーザー、流通、製紙企業それぞれの担当者へのヒアリングによる積み上げを基に試算しているが、一部品種については回帰分析等統計的な手法も使用している。なお、予測値及び見込み数値等は以下の点に留意されたい。

- ①衛生用紙の実績及び見込み数値には、原紙需給に大きく影響するとみられる紙製品として新たにティシュペーパーの輸入を追加した。
- ②段ボール原紙の見込み数値は、従来、使用していた経済産業省発表の段ボールメーカーの原紙在庫が2011年から同省の統計見直しにより把握できなくなったため、以前の数値とは不連続となっている。但し、伸び率は調整した。
- ③雑種紙及びその他の板紙の予測については、今回から、この2品種を除く紙・板紙合計の伸び率を使用した。
- ④予測値及び見込み数値等は2011年12月28日時点で得られた情報を基に作成した。